
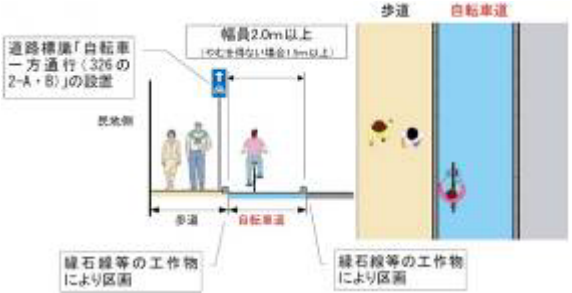
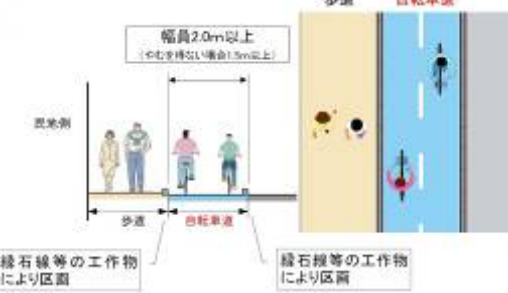


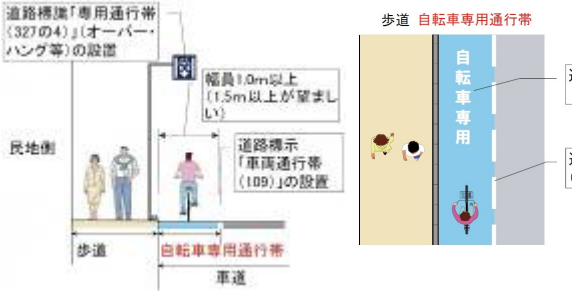
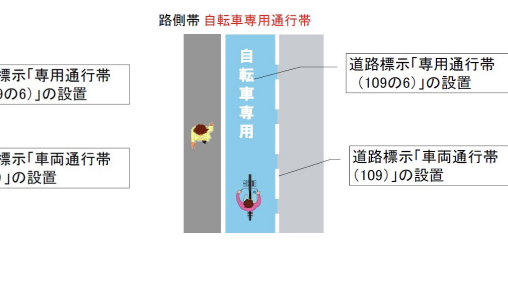






■普通自転車の歩道通行可能要件


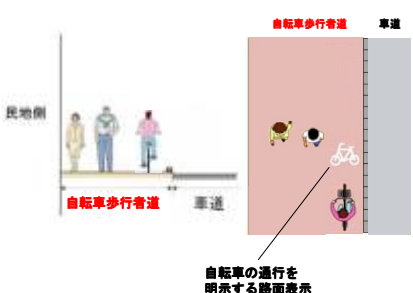


②自転車の通行空間

自転車は、車両の一つであり、車道の左端を通行することが原則となっています。
 ただし、右記の場合は、自転車は歩道を徐行して通行することができます。
 自転車の通行空間は、下表に示す分類があります。

- ・道路標識などで指定された場合
- ・運転者が13歳未満の子供、70歳以上の高齢者、身体の不自由な人の場合
- ・車道または交通の状況からみてやむを得ない場合
 (歩行者は、「普通自転車通行指定部分」をできるだけさけて通行する努力義務あり)

| 分類 | 自動車の規制速度と交通量(目安) | 自転車通行空間のイメージ | 整備事例 | 備考 |
|--|--|--|---|--|
| 自転車道 ・自動車とは構造的に分離  | 規制速度 50 km/h 超 (A) | 【一方通行の場合】  【双方方向通行の場合】  |   | <ul style="list-style-type: none"> ・双方方向通行の場合、自動車と逆方向に通行する自転車の出会い頭事故の危険性、交差点内での自転車同士の交錯の危険性がある ・自動車交通と分離するため、必要な区間では車両用防護柵を設置できる ・景観に配慮すべき区間は、自動車交通との分離に植樹帯を設置できる ・歩行者の横断を抑制する必要がある場合は、横断防止柵を設置できる |
| 自転車専用通行帯(自転車レーン) ・自動車とは視覚的に分離  | A、C 以外 (B) | 【歩道がある場合】  【歩道がない場合】  |   | <ul style="list-style-type: none"> ・自動車の進行方向と同一の一方通行 ・一方通行道路(自転車除く)では、自動車の進行と逆方向となる自転車専用通行帯の規制はできない (車道上に自転車専用通行帯に準じた路面表示の設置が望ましい) |
| 車道(車道混在) ・自動車とは混在 | 規制速度 40 km/h 以下 交通量 4,000 台/日 以下 (C) | 【歩道がある場合】  【歩道がない場合】  |   | <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、ハンプ、狭さく、シケイン等による速度抑制の検討 ・自動車の一方通行規制、大型車の通行規制の検討 ・ゾーン 30 による面的な速度抑制の検討 |

■当面の整備形態 (自転車の通行環境が整備されるまでの間、既存の空間を活用して自転車が通行できるもの)

| | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 自転車歩行者道 ・自動車とは物理的に分離  | 既設の自転車歩行者道の活用 (自転車交通量が少なく、歩行者と自転車を分離する必要がない場合) |  <ul style="list-style-type: none"> ・道路交通法による「普通自転車通行可」の指定のある歩道等 ・幅員(植樹帯等含まない): 歩行者が多い道路は 4.0m 以上 それ以外は 3.0m 以上 (道路構造令) ・双方方向通行 ・徐行通行の徹底 ・通行部分の指定がある場合、その部分を通行 指定がない場合は、車道寄りを通行 |   | <ul style="list-style-type: none"> ・自転車道等への変更の検討 ・自転車の徐行通行を徹底するため、路面表示及び舗装の材質やデザインに配慮 ・自転車同士の衝突事故や、自転車と歩行者の事故を防止するため、自転車の一方通行の規制を導入する事例あり (静岡市、相模原市) |
|--|---|---|---|---|

資料：安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン(平成24年11月 国土交通省道路局、警察庁交通局)